

アルティメットの競技歴と傷害に関する検討

佐々木 唯 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 大久保 衛

キーワード 競技歴、スポーツ傷害、アルティメット

3. 結果と考察

1. 緒言

大学から始める選手がほとんどあるアルティメットはジャンプ、カッティング、ストップ、ターン、ダイビングなどを行い、激しい接触プレーも多く見られるスポーツである。その競技特性からスポーツ外傷・障害が発生しやすい。しかし日本での研究は少なく、スポーツ傷害の予防対策を知ることが困難だと考えた。そこで本研究でフライングディスク競技であるアルティメットの競技歴によるスポーツ傷害の傾向を明らかとし、そのスポーツ傷害は競技歴による身体動作の変化と関係があるのかを目的とした。

2. 研究方法

本研究は2つの研究からなる。

研究Ⅰ 競技歴による身体動作の変化の比較について

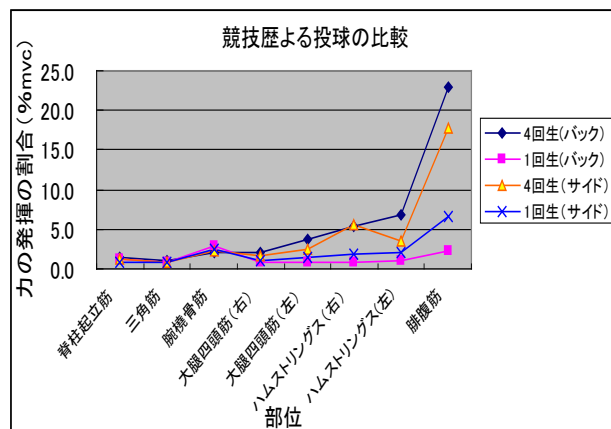
1) 被験者 びわこ成蹊スポーツ大学アルティメット部に所属している選手1回生男子2名、女子2名、4回生男子2名、女子2名

2) 実験方法 筋電図計測機、ハイスピードカメラを用いて8つの筋肉を被験筋とし投球動作の分析を行った。

研究Ⅱ 質問紙調査

1) 対象者びわこ成蹊スポーツ大学アルティメット部に所属している選手1回生15名、2回生9名、3回生21名、4回生16名の計61名であった。

2) 実験方法 アンケートを調査を行った。



研究Ⅰより、競技歴により下肢筋肉の値が大きいことから身体動作の変化が起こることが判明した。ことから1回生よりも4回生の方がフォアハンドスロー時、バックハンドスロー時ともに腓腹筋を踏ん張って投げているため、下肢筋肉の値が大きいという結果になった。研究Ⅱより部位別では下肢の傷害が多く、疾患別では捻挫が多いことが明らかとなった。また考えられる原因は個人にばらつきがみられなかった。しかしいずれの結果にせよ競技歴の大きな変化は明らかとならなかった。

4. まとめ

- ・投球時の下肢筋肉への負担は競技歴により変化が起こることが示唆された。
- ・下肢の傷害が多く、また捻挫による疾患が多いことが示唆された。
- ・障害の部位別、疾患別、原因では競技歴別による大きな変化はなかった。

5. 参考文献

木塚朝博 増田正 木竜徹 佐渡山亜兵 (2006) : 表面筋電図. 146-154. 東京電機大学

